

イベント開催報告 及び 今後のイベントについて

第2回 モビリティDXプラットフォーム 会員交流イベント 概要報告

1/16(木)、名古屋市鶴舞のイノベーション拠点STATION Aiの1階イベントホールにて、第2回モビリティDXプラットフォーム会員交流イベントが開催されました。

本イベントの狙いは、プラットフォーム会員同士の交流を促進するとともに、モビリティDXに関する知見を深めることであり、現地141人にオンラインを合わせ、計440人を越える方々にご参加いただきました。

今回のイベントでは、「自動運転」と「新たな価値創出」をテーマにプレゼン・トークセッションを行いました。自動車課モビリティDX伊藤室長の基調プレゼン「モビリティDX 検討会・WGについて」の後、社会実装に取り組む企業やスタートアップ、アカデミア、ジャーナリストの8人の登壇者にプレゼン頂き、国内外での先進事例や社会実装に向けた取り組み等を熱く語って頂きました。

トークセッションは「自動運転の社会実装に向けた取組」「新たな価値創出に向けた取組」をテーマに、東京大学須田教授、名古屋大学高田教授がモデレー

タとなり、登壇者をパネリストとして社会実装の推進や産業競争力強化に向けた活発な議論が行われました。

イベント後、会場では登壇者と一般参加者が気軽に交流を行う懇親会が行われ、リアル開催ならではの議論・ネットワーキングの機会となりました。また、会場内にはe-Paletteの実車が展示され、参加者の関心を集めました。

イベント後の参加アンケートでは、「自動車の価値観が変わってきていることを改めて感じた」「産学にスタートアップがミックスされ同じテーマで聞けたのが良かった」「CES速報やADASの現状など最新の状況を確認できた」「様々な立場の方と実際に会話することで気付きがあった」などのご意見を頂き、高い満足度を得て頂いたイベントとなりました。

2月7日には東京にて第3回の開催を計画しており、申し込み受付中です。今回ご参加できなかった方々も含め、さらに幅広い方々のご参加をお待ちしています。



プレゼンの様子



トークセッションの様子

●登壇者・プレゼンタイトル一覧

・プレゼン1

May Mobility 自動運転技術の日本への導入



中村 卓史
May Mobility Japan 合同会社
Director, Japan Country Manager

・プレゼン2

金沢大学の自動運転技術の社会導入に向けた取り組み



菅沼 直樹
金沢大学 高度モビリティ研究所 教授(副所長) /
株式会社 ムービーズ 代表取締役

・プレゼン3

イービー愛知 自動運転への取り組み



伊藤 勝規
イービー愛知株式会社
代表取締役

・プレゼン4

SDVで変わる。次世代モビリティの設計・生産



川端 由美
電動モビリティシステム専門職大学・准教授 /
ジャーナリスト/ストラテジスト

・プレゼン5

“Move” for All すべての人に移動と感動を



後藤 淳一
トヨタ自動車株式会社
CJP企画部 主査/担当部長

・プレゼン6

「必要な移動を楽しい移動に」



高梨 伸
ソニーグループ株式会社
SC Pj. プロジェクトマネージャー

・プレゼン7

車載アプリ多様化による移動体験の付加価値向上の可能性



程塚 正史
株式会社 Bashow
代表取締役 CEO

・プレゼン8

モビリティ×エネルギーのセクターカップリングの実現に向けた取り組み



宮田 豊
AZAPA 株式会社
取締役/経営企画担当

・トークセッション第1部

自動運転の社会実装に向けた取組



中村 卓史



菅沼直樹



伊藤 勝規



川端 由美



経済産業省 製造産業局自動車課
モビリティDX室長

伊藤 建



<モデレーター>
(一社)モビリティイノベーションアライアンス 副理事長
東京大学モビリティイノベーション連携研究機構長・教授

須田 義大

・トークセッション第2部

新たな価値創出に向けた取組



後藤 淳一



高梨 伸



程塚 正史



宮田 豊



経済産業省 製造産業局自動車課
モビリティDX室長

伊藤 建

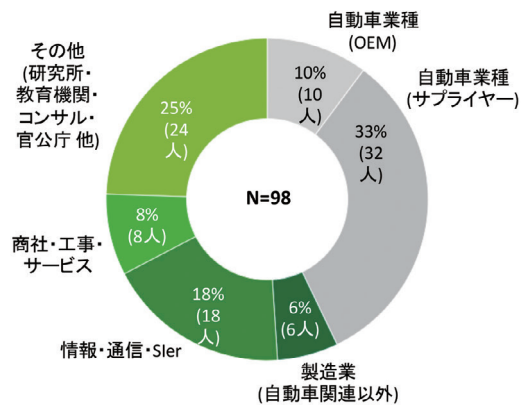


<モデレーター>
名古屋大学 モビリティ社会研究所
所長・教授

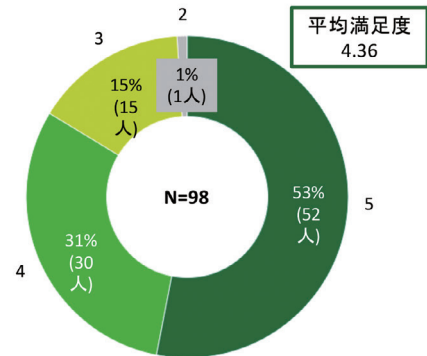
高田 広章

● アンケート結果

所属業界
自動車業界以外の方にも多数ご参加いただきました



イベントの満足度
8割以上の方にご満足いただけたイベントとなりました



● 参加者の声

■ イベントの形態について

- ・ 大勢の第一人者を揃えていただいた
- ・ 産学にスタートアップがミックスされて同じテーマだから良い
- ・ 実地に声を聞き会話できることで様々な気づきがある
- ・ Station Aiでの開催が良かった

■ 得られた気付きについて

- ・ 自動車の価値観が変わって来ている事を改めて感じた
- ・ 欧米、中国と競うために、日本国内の優れた知恵、ノウハウの融合が重要と感じた
- ・ CES 速報や自動運転の話が自社ビジネスと関連していた
- ・ 現在のSDV市場や、これまで知らなかったスタートアップの取り組みが知れて刺激になった

プラットフォーム会員交流イベント(第3回案内)

2025年2月7日(金) 16:00~20:00

自由な情報共有・ディスカッションや交流

プラットフォーム会員交流イベント

— 第3回 —



●概要

モビリティDXプラットフォーム会員同士の自由な情報共有・ディスカッションや交流のためのイベント

●目的

様々なテーマについて、会員の取組事例のプレゼンテーション、ディスカッション、ネットワーキングなどを行い、プラットフォーム会員同士の交流を促進するとともに、モビリティDXに関する知見を深めることを目指します。

●第3回概要

国内及び海外におけるSDVに対する取り組みの現状及び今後に向けた研究開発の動向について、登壇者からの取組事例紹介やトークセッションを行った後、懇親会(立食形式)を実施。

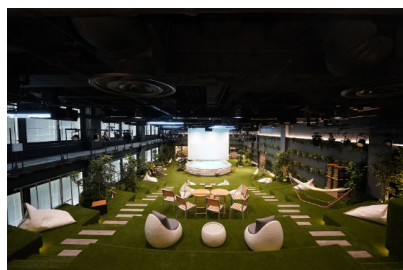
開催日時: 2025/2/7(金) 16:00~20:00

開催方法: 現地参加 もしくは オンライン配信

開催場所: Deloitte Tohmatu Innovation Park Room D

アクセス: 〒100-0005 東京都千代田区丸の内三丁目3番1号 新東京ビル8F
JR有楽町駅 国際フォーラム口より徒歩3分
地下鉄有楽町駅 D5 出口より徒歩3分
地下鉄千代田線 二重橋前駅 出口1より徒歩2分
JR京葉線 東京駅B1F 地下コンコース 出口6より連絡
JR東京駅 丸の内南口より徒歩5分

●会場イメージ



●参加対象者

- ・モビリティ業界への興味を持っている方
- ・モビリティDXプラットフォームの会員同士で繋がりたい方

※自動車メーカー・サプライヤー、スタートアップ、大学・研究機関、異業種、学生・個人など幅広い方々の参加をお待ちしております

●参加メリット

- ・テーマに関する会員の取組事例についてのプレゼンテーションを通じて、モビリティDXに関する知見を深めることが可能
- ・ディスカッション、ネットワーキングを通じて、プラットフォーム会員同士の交流の促進が可能

●参加費用

無料 ※交通費は自己負担

●参加方法

モビリティDXプラットフォーム会員交流イベント第3回のお申し込みはこちらよりお申し込みください。

https://www.jsae.or.jp/enquete/exchange_event03/

詳細は後日Webサイトに公開いたします。



関連イベント

【スマートモビリティチャレンジ協議会】シンポジウム・体験会(福岡県)のご案内

この度、スマートモビリティチャレンジ推進協議会では、協議会の活動の一環として、福岡県にてシンポジウム・体験会を開催いたします。

イベントの詳細や参加登録方法は下記をご参照ください。皆さまのご参加をお待ちしております！

シンポジウム(福岡)



「広域エリアのMaaS」をテーマとし、先導的に取組を進めている九州圏、福岡県でのMaaSの動向や取組内容をご紹介します！

開催日時：2025年2月3日(月)
15:00～17:40

※終了時刻が変更となりました(17:30⇒17:40)

開催場所：TKP ガーデンシティ博多新幹線口

※ JR 鹿児島本線・福岡市地下鉄空港線 博多駅 筑紫口 徒歩1分

申込期限：2025年1月31日(金) 12:00 まで

参加費：無料

●プログラム(予定)

1. モビリティサービスのリ・デザイン

～九州に必要なモビリティの進化とは～

登壇者：一般財団法人計量計画研究所 理事
神戸大学 客員教授 牧村 和彦 氏

2. MaaS 2.0

～地域公共交通DXの新たな展開に向けて～

登壇者：国土交通省 総合政策局
モビリティサービス推進課

3. 福岡県における先導的な取組紹介

(1) 九州MaaSの取組紹介

登壇者：一般社団法人九州MaaS協議会 様

(2) 福岡県におけるMaaS事業の取組紹介

登壇者：福岡県 企画・地域振興部 交通政策課 様

4. スマートモビリティチャレンジ推進協議会

事務局からの情報共有

シンポジウム(福岡市)の詳細・お申込はこちら

<https://forms.gle/DzVdMVDCQS7WqzV46>

※複数名での参加をご希望の場合もお1名様ずつお申し込みください。

体験会(日田彦山線エリア)



福岡県様より福岡県MaaS事業の取組のご紹介を、JR九州様より日田彦山線BRTに関するご紹介をいただき、意見交換を行う予定です。その後、実際に日田彦山線BRTに乗車します！

開催日時：2025年2月4日(火)
12:50～17:00 頃(予定)

開催場所：日田彦山線エリア

(西添田駅周辺での集合、日田駅での解散を予定)

※詳細およびアクセス方法は後日ご案内いたします。

申込期限：2025年1月28日(火) 17:00 まで

参加料：無料

(試乗に掛かる運賃は事務局にて負担いたします)

体験会(日田彦山線エリア)の詳細・お申込はこちら

<https://forms.gle/qgtbRCWJQGhLQ1fC7>

※複数名での参加をご希望の場合もお1名様ずつお申し込みください。

※体験会・シンポジウム両方にご参加の場合は、お手数ですが上記の各フォームそれぞれでご登録ください(同時申込はお受付できませんのでご了承ください)。

※体験会・シンポジウムへの参加にあたり発生する交通費及び宿泊費は参加者の負担となりますのでご了承ください。両方に参加する場合の会場間の交通費も参加者負担となります。

●問合せ先

スマートモビリティチャレンジ推進協議会 事務局
体験会・シンポジウム 担当
ml-mobichalle@dx.n-koei.co.jp

業界ニュース

CES 2025

1月7日～10日に米国で開催されたCES 2025では、モビリティDXに関する講演や展示が多数行われていました。

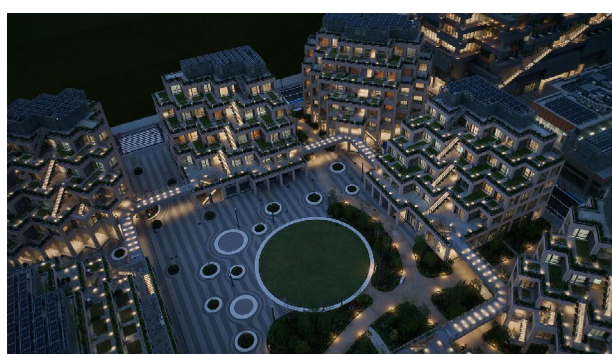
●全体観

今年度は、“DIVE IN”を掲げ、約4,500社が参画し、約14.1万人が来場する等引き続き活況でした。

CES 2025全体では、特に「エネルギートランジション」「AI」が主な重要なテーマとして挙げられ、その活用領域として自動車も挙げられていました。モビリティDX領域については、Tesla（出展なし）、BYD（バッテリーの展示のみ）など展示が確認できない企業もありましたが、主要な企業の情報は以下のとおりです。



●TOYOTA : Woven Cityの進捗を報告



出所) トヨタ自動車プレスリリース

https://toyotatimes.jp/toyota_news/1071.html

●HONDA : 新グローバルEV「0シリーズ」を世界初公開



出所) 本田技研工業ニュースリリース

<https://global.honda/jp/news/2025/c250108a.html>
<https://global.honda/jp/news/2025/c250108b.html>

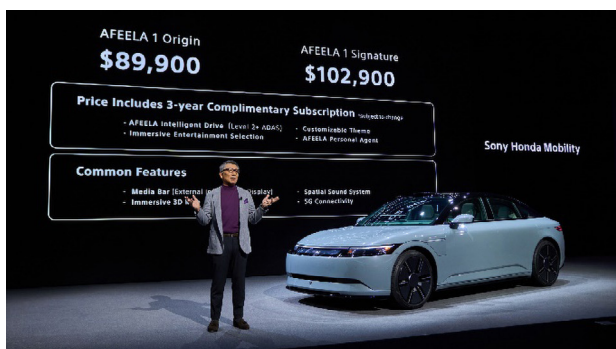
- SUZUKI：創業以来の理念である「小・少・軽・短・美」を訴求しつつ、パートナーを募る



出所) SUZUKI CES特設サイト

<https://www.suzuki.co.jp/ces2025/>

- Sony Honda Mobility：「AFEELA 1」を発表。オンライン予約受付を1/6より米国カリフォルニア州にて開始



出所) Sony Honda Mobility ニュースリリース

https://www.shm-afeela.com/ja/news/2025-01-06_5/

- BMW：新たなHMIである「BMW Panoramic iDrive」を発表



出所) BMW PRESSCLUB GLOBAL · ARTICLE.

<https://www.press.bmwgroup.com/global/article/detail/T0447111EN/new-bmw-panoramic-idrive-revolutionises-vehicle-operation-visionary-technology-package-for-the-neue-klasse-celebrates-world-premiere-at-ces-2025>

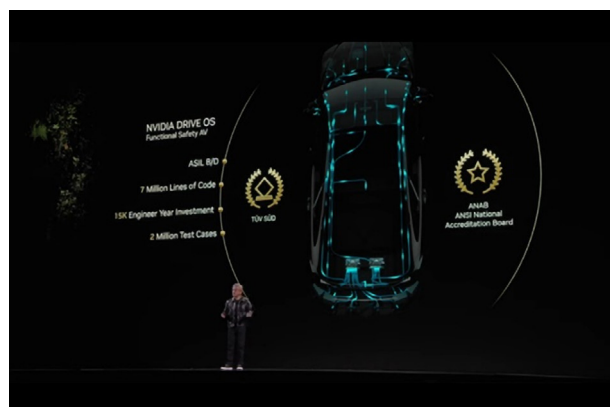
- Zeekr：「009 Grand」「MIX」「001 FR」の3車種に加え、NVIDIA Thorを採用した内製ECUを紹介



出所) ZEEKR HP

<https://www.zeekrlife.com/en-au/posts/zeekr-unveils-next-generation-innovations-at-ces-2025>

● NVIDIA : AIとそれを支えるGPU、ロボティクス、自動運転技術等、多岐にわたる最新技術の進化と未来像を講演



出所) NVIDIA HP

<https://www.nvidia.com/ja-jp/events/ces/>

モビリティDX 戦略策定後の進捗

米国コネクティッドカー最終規則について (2025年1月14日発表)

米国商務省産業安全保障局 (BIS) は 1 月 14 日、中国とロシアが関係するコネクティッドカーなどの輸入または販売を禁止する「コネクティッドカーにおける情報通信技術サービス (ICTS) サプライチェーン保護」の最終規則を発表しました。

コネクティッドカーとは、外部ネットワークとの通信機能を持つ車両のことです。車が通信ネットワークにつながることで、車両の状態や周囲の道路状況などセンサーから取得する様々なデータの集積・分析や、販売後の車両ソフトウェアの更新も可能となります。

最終規則の中では、中国・ロシア関連のコネクティッドカー向けハードウェア及びソフトウェア、それらを搭載した車両の輸入・販売を禁止することが規定されています。最終規則は公示後、60 日後から効力を有しますが、実際に輸入や販売が禁止されるのは、ソフトウェアは 2027 年モデルから、ハー

ドウェアは 2030 年モデルから、モデルイヤーのない車両については 2029 年 1 月 1 日からとなります。中国やロシアに関連する製造業者によって米国で生産された車両に対しては、2027 年モデルから対象となります。ただし、移行期間が設けられ、ソフトウェアのみ、2026 年 3 月 17 日より前に設計、開発、製造された場合に限り、今回の規制の対象外となります。また、特定の輸入業者および製造業者に対して、禁止規則の順守を証明する適合宣言書を毎年提出することが義務付けられました。

モビリティDX戦略で目標として示したSDVのグローバル販売台数における「日系シェア3割」の実現(2030年及び2035年)を目指す上では、こういった各国の規制やコネクティッドカーの特性を踏まえたサイバーセキュリティ対策、そのための人材育成も必要となります。

モビリティDXに関わる国内外動向について

- NVIDIA DRIVEパートナーがCESで最新のモビリティイノベーションを展示

➔ <https://blogs.nvidia.com/blog/drive-partners-showcase-ces/>

- AFEELAの車載オーディオシステム、Dolby Atmos[®]に対応～最高水準のオーディオ体験を提供へ～

➔ https://www.shm-afeela.com/ja/news/2025-01-06_2/

- QNXがMicrosoftと提携し、ソフトウェア定義車両のイノベーションを推進

➔ <https://www.blackberry.com/us/en/company/newsroom/press-releases/2025/qnx-collaborates-with-microsoft-to-drive-software-defined-vehicle-innovations>

- NVIDIA、Cosmos World Foundation Modelsで自律走行モビリティ向け3台のコンピュータソリューションを強化

➔ <https://blogs.nvidia.com/blog/three-computer-cosmos-ces/>

- HERE TechnologiesとAWSがAI搭載の「SceneXtract」を発表し、現実世界の自動運転シミュレーションを変革

➔ <https://www.here.com/about/press-releases/en/here-technologies-and-aws-unveil-ai-powered-scenextract-to-transform-real>

- QNX、デジタルコックピット開発を加速する業界初の自動車ソフトウェアソリューションを発表

➔ <https://www.blackberry.com/us/en/company/newsroom/press-releases/2025/qnx-launches-industry-first-automotive-software-solution-to-accelerate-digital-cockpit-development>

- モビリティのテストコース“Toyota Woven City”、Phase1の建築を完了し、準備を本格化

➔ <https://global.toyota/jp/newsroom/corporate/42055998.html>

- 京都府京田辺市における自動運転EVバスの実証運行実施に参画しました

➔ <https://aisan-mobility.com/202412kyoutanabe/>

- AWSはホンダと連携し、ホンダの次世代ソフトウェア定義車両を実現し、生成AIでEV充電エクスペリエンスを向上

➔ <https://press.aboutamazon.com/aws/2025/1/aws-collaborates-with-honda-to-realize-hondas-next-generation-of-software-defined-vehicles-and-improve-ev-charging-experiences-with-generative-ai>

- ジェンテックス、CES 2025で次世代の調光ガラス、ビジョン、センシング、コネクティビティ製品を発表
➔ <https://ir.gentex.com/news-releases/news-release-details/gentex-unveil-next-generation-its-dimmable-glass-vision-sensing>
- 「Honda 0 SALOON」、 「Honda 0 SUV」 をCES 2025で世界初公開
➔ <https://global.honda/jp/news/2025/c250108a.html>
- Pony.aiは香港国際空港(HKIA)で無人運転サービスを提供する予定で、将来的には香港の都市部にもロボタクシーサービスを拡大する計画です。
➔ <https://www.businesswire.com/news/home/20250108238865/en/Pony.ai-Plans-to-Provide-Driverless-Services-at-Hong-Kong-International-Airport-HKIA-with-Plans-to-Expand-Robotaxi-Services-into-Urban-Hong-Kong-in-the-Future>
- コグニザント、ソフトウェア定義車両向けソリューションアクセラレータでシーメンスと提携
➔ <https://newsroom.sw.siemens.com/ja-JP/siemens-cognizant-ces-2025/>
- VicOne、Microsoftとの協業を発表
➔ <https://vicone.com/jp/company/press-releases/vicone-collaborates-with-microsoft-to-provide-software-developers-with-differentiated-automotive-threat-intelligence>
- Zeekr、Mapboxと提携しスマートドライビング体験を向上Mapbox、Zeekrのソフトウェア定義型車両(SDV)プラットフォーム向けにリアルタイムナビゲーションおよびマッピングサービスを提供
➔ <https://www.mapbox.jp/news/newsrelease-20250109>
- ティアフォー、長野県塩尻市で自動運転レベル4の運行許可を取得
➔ https://tier4.jp/media/detail/?sys_id=3UpRYDHrw0xAF65Esybu74&category=NEWS
- 車や人との衝突を未然に防ぐ 道路横断におけるロボットの自動制御に成功
➔ <https://www.kajima.co.jp/news/press/202501/10a1-j.htm>
- MapboxとCerence AI、音声駆動型ナビゲーションの未来を加速するための協業を発表
➔ <https://www.mapbox.jp/news/newsrelease-20250110>
- BMW初、革新のBMWパノラミックiDrive—BMWオペレーティング・システムXを採用
➔ <https://www.bmw.co.jp/ja/digital-services/bmw-idrive.html>
- セレンス、言語モデル「CaLLM™」ファミリーの機能向上に向け NVIDIAとの提携を拡大
➔ <https://www.cerence.com/ja/news-releases/news-release-details/serensuyanyumoterucallmtm-fuamirinojinengxiangshangnixiangke>

モビリティDX会員限定!ニュースレターへの記事掲載をご希望される方へ

本ニュースレターを活用してモビリティDXに関わる情報発信をしたい方は<問い合わせ先>まで氏名、ご所属をご連絡ください!

●掲載に関する詳細は以下の通りです。

- ・ご連絡いただいたタイミングで間に合う号への掲載となります
- ・掲載量は1件につき1/2ページ以内となります
- ・URL等外部サイトへのリンクの記載は可能です
- ・記事に関する問い合わせ先をご記載ください
- ・掲載情報は技術紹介や取り組み事例の紹介に限ります。個社の製品やサービスの宣伝はご遠慮ください。事務局が趣旨に合わない内容と判断した場合はお断りする場合がございます。